

雪の状態は全く悪く、ハイマツ、カンバに足を取られ難行した。2,300mあたりから尾根筋には萎縮した木が大きなモンスターとなって行手をさえぎっているので、一つ一つをたたき落さなければならない。やっと萎縮林を通り抜け下降、トラバースを続け小カン木の間で設営した。

天気予報は見通しの暗いことを言っている。明日は半日もてばと思う。

12月27日 晴時々曇 7時出発、朝から深い雪に難行する。胸まで入る雪に登りのよう空身のラッセルが続く。ここらあたりは、地図上でもかきい狭い尾根となり、ルートは一担広げた尾根上に出て又、西沢側の唐松の大木の間をトラバースするように進む。そのままトラバースを続けているうちに、急傾斜の岩場が表われ行きづまってしまった。どうやら支尾根に入った様子だ。見通しがきかず次々と偵察を行う。その結果支尾根を直登するよりも、岩場に沿って少し登り、急な雪面をトラバースする。ここらあたりは樹間ではあるが、西沢まで一気に落ち込んでおり、永森がずるずると1m程滑りはじめ、ひやっとする。そのままトラバースを続けながら主稜上へ出た。丸い感じのこの尾根を走るようにして下り、ペナントに導かれながら忠実に主稜上を辿ると第五発電所の池が真下に見える頃には雪も少くなり、ワカンをはずし靴で下る。切り開きをジグザグに下って道水路の道にて、西沢の河原を吊橋まで行き、やっと一息ついた。天気も本格的な崩れを見せ始め、みぞれのようなものまで降り出したが、そのまま葛温泉まで一気に歩き通し、午後8時に到着した。

3. 槍ヶ岳・北鎌尾根 昭和42年12月20日-1月2日 藤原聰

12月21日 快晴 初日から最高の天気である。去年は、七倉からすでにヤッケを着て、オーバースポン、オーバーシューズの完全装備で出発したのに。今年は全員スパッツのみで湯俣まで入る事ができた。全く全員汗だくの行進であった。テント場も地面が所々露出しており、冬用のテントを土の上に張るという全く冬山にあらざる光景である。

12月22日 晴. -2°C 今日は北鎌尾根取付までの予定である。雪も割合少く全員コンディションよく去年の倍くらいのピッチである。早々に尾根取付に着く。時間も早いので P₂ までのルート工作に3名が出る。

12月23日 晴. -10°C 昨日のルート工作を行った所を行く。雪は適当にしまっていて、全員快調なベースである。P₂ テント場まで傾斜は相当に急であるが特に問題となる所はない。しかし1カ所だけ岩が出ていてハシゴのかつた所があったが、そこも前日のフィックスザイルにて全員問題なく通過する。昼前頃、尾根上のP₂ テント場に着く。時間も早く天気も良いので4名で4.5コル (B C 予定地) まで荷上げを行う。

12月24日 雪. -2°C ガスっていてあまり良い天気ではない。前日荷上げ時のラッセルを行く。P₂、P₃のクーロアールは大した事もなく通過する。昼少し前4.5コル着。4名で6峰のところまでルート工作に出発する。この頃より風も強くなり風雪となる。

本日を以ってB C 建設を終る。今日はクリスマス・イヴ、昨年の今日の荒天をふと思い出してシュラフに入いる。

12月25日 晴. -8°C C₁ 建設、空は晴れていたが、かなり強い風である。とても寒い。5峰の手前で先行のHパーティに待たされる。じっとしていると顔はいたくてひきつりそうだ。しかし風は千丈沢の方から吹いていたので6峰の登りは別に問題なく、6峰の下りで先行パーティがあったので間隔をとるため少し待つ。

昼近く北鎌沢コルC₁ 予定地着。さっそく建設にかかる。

12月26日 俄雪. -7°C 独標 (A C 予定地) までの荷上げとルート工作を行う。今日までの晴天とはうって変わって天気も悪くなって来た。ガ

スっていてみとうしも悪い。しかし雪はしまっているので実際の行動面におけるコンディションはそんなに悪いとはいえないだろう。北鎌沢から独標の上までも特に悪いという個所は無いようだ。ただ一個所だけ千丈側にでっぱっている岩を回り込む所（独標基部からピークまでのほぼ中間地点）のみは、千丈側に相当切れ落ちて居り高度感もあり注意を要する。我々は完全なるザイル工作を行った。すこし前後するが、我々は独標の基部から千丈側をまききみにして独標ピークに出るルートを取った。

12月27日 風雪、-16°C 停滞。朝AC建設のためテントを出発したが風雪はげしく中止する。

12月28日 風雪、-13°C 停滞。

12月29日 晴、-11°C AC建設。朝から少し天気の様子を見て、9時30分ACメンバー2名、サポートメンバー2名にて出発。天狗の腰掛でサポート隊2名と握手して別れる。独標基部よりピークまで、前日のフィックスザイルを用いて約30分のピッチであった。独標のピーク着12時40分、我々は独標ピークの天井沢よりACを設営した。

12月30日 晴、風強し 槍ヶ岳アタック。4時40分起床、4時50分BC及びC1との2交信を終り、朝食・出発準備。7時出発。これから登っていく雪稜が朝日でだんだんと黃金色に染まっていく。そして正面には黒々とした巨大な槍の穂先があった。独標の下りは千丈側を行く太陽の陰になり、なんとなく暗い感じだ。

千丈側に出たとたんに強い風をうける。雪は少くよくしまっている。アイゼンの雪にきしむあの独特の音が快よい。独標を下りきった所で交信時間となり交信を試みたがやはりダメであった。我々はルートのほとんどをリッジ伝いにとっていたが、雪も適当についていてそれほど困難もなく、8時35

分北鎌平につく。ここにおりてのトランシーバー交信は成功した。あと1時間でピークに立てる事を連絡する。このあたりから風はますますその勢いを増してきた。そしてすぐ目の前には部分的に雪をつけた黒々とした岩のピークが迫ってきた。

それはまるで所々に雪をつけた巨大な岩壁であった。ここからみると、どこにルートをとっていけばいいのか迷う程それは圧倒的である。小休止の後最後の登りにかかる。大槍基部からは所々に残置ハーケンがあるので、それをピレイピンとしてつるべ式に登っていく。雪の状態もよく、別にザイルを使う必要もないようと思われたのであったが、念のため用いた。最初はリッジ通しに行き、そして右へ大きく回りこんでいった。

登るにしたがって風はますます強くなり、又上部の方は丁度日陰になつてるので、雪は氷のようになつておあり、強風のため寒氣はきびしく、手の指の感覚も失くなってきて苦労する。

9時58分槍ヶ岳ピーク着。槍沢に雪煙のまわっているのを見る。すぐにACサポート隊と交信する。

10時15分下山にかかる。やはり北鎌平の所までの下りは少し苦労する。北鎌平からは登りと同じルートを忠実にたどつて行く。1時28分サポート隊の待つてゐる独標のACに帰つつく。AC撤収の後北鎌沢コルC1まで下る。

12月31日 晴後俄雪 下山開始。C1撤収の後下山にかかる。4.5のコルでBC隊と合流し全員湯俣まで下る。

167 1月1日 みぞれ後雨+1.5°C 合宿始めて寒暖計の針が十になった。朝からみぞれが降つた。全員ずぶぬれになつて高瀬川の軌道を歩く。みぞれはまもなく雨に変わる。

誰もろくに口をきかない。休みもせずにただ歩きに歩いた。2時30分葛温泉着。今合宿の終点である。

解散の後、全員風呂へ入る。そして66年度冬合宿もここに幕をとじたのであった。